

社員個人での感染予防はもう限界

会社は社員の不安解消に全力をあげるべきだ

【新型コロナウイルス感染対策における申し入れ】

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない現状下、支社も危機管理本部から感染防止に向けた対応なども出されているが不安解消には至っていない。

組合員や社員の不安解消に向け下記の通り申し入れるので速やかに団体交渉を開催し不安解消を図りたい。

1. 社員が感染の疑いのある症状で病院へ行く時の勤務はどのような扱いになるのか明らかにすること。
2. 社員がPCR検査を受け、結果が出るまで自宅待機となると思うがその時はどのような扱いになるのか明らかにすること。
3. 社員が陽性と判定された後の勤務はどのような扱いになるのか明らかにすること。
4. 社員が濃厚接触者と認定され、病院での検査・判定結果が出るまで自宅待機となるがその時はどのような扱いになるのか明らかにすること。
5. 職場で感染者が出た場合の対処を具体的に明らかにすること。
6. 職場にマスク、消毒液などの補填を行い、拡大防止を指導すること。また希望する者には、手袋・フェイスシールド等も支給すること。
7. 千葉支社危機管理本部から千指第188号が出され、今まで以上に感染防止が呼び掛けられているが、現実では従来と変わらず、対策がされていないと報告されている。感染予防を図る上でも業務に必要な要員以外はテレワーク・自宅待機とし、感染予防を徹底すること。
8. 千葉支社内においても度々感染者が出ているが職場によっては公表されない実態も報告されている。感染を隠すのではなく、身近に感染のリスクがあるという注意喚起として公表すること。
9. JESS支店では感染者が出たが現場周知をしないばかりか、他の濃厚接触者の個人情報流出させるといった事実も発生させながら注意喚起すら周知しない。不都合事案は公表しないと現場から報告されている。エルダー社員も多く、またグループ会社であることからJRから強く指導すること。

新型コロナウイルス感染症が流行ってからの1年半が経つが、終息はまったく見えず、緊急事態宣言が繰返し発出されている。

政府はワクチン接種をと訴えるが、自治体には十分な量のワクチンが届かず予約が取れない状況が続いている。

JR東日本は運輸系統の社員を優先に職域接種を行っているが、直助役などの内勤が優先されず、乗務員への接種は遅々としている。

先になり、乗務員への接種は遅々としている。職業業務を委託されているJESSでの職域接種は泊まり勤務の職務長のみで一般社員は対象外となっている。

JESSでは警戒レベルを「E」として研修は原則中止・延期・オンライン、出張は原則禁止としているが、JR本体は研修は感染予防を講じて実施、出張はやむを得ない場合は可と緩い。

JR千葉支社は早急に交渉を

先になり、乗務員への接種は遅々としている。職業業務を委託されているJESSでの職域接種は泊まり勤務の職務長のみで一般社員は対象外となっている。

JESSでは警戒レベルを「E」として研修は原則中止・延期・オンライン、出張は原則禁止としているが、JR本体は研修は感染予防を講じて実施、出張はやむを得ない場合は可と緩い。

東京都交通局では集合点呼の中止や引き継ぎ時間見直し、入庫車両の消毒などを行っている。私鉄では職域接種や在宅勤務・窓口の遮蔽や手洗いの徹底などしているが宿泊は設備上対策できない個所もある。民間企業では同じメンバーでグループを作り感染者が出ても他のグループへは広げない対策をしている。

CTSの清掃職場では、詰所にパーティションの設置や自宅待機の他に、以前除菌剤が個人に配られたという。

国労ちば

国鉄労働組合
千葉地方本部
発行人 井村 好博
編集 安田 正浩
【電話】
JR 2930 FAX 2934
NTT 043(238)5963
FAX 043(238)5967

「安全を守る」
君の思いは
国労と一緒に

第75回国労千葉地本定期大会

日時：2021年10月16日10時開始
場所：千葉県教育会館303号室

機関紙コンクール開催

2020年10月1日～2021年9月30日迄に
分会で発行した機関紙を地本へ送ってください。
地本大会の中で発表・表彰します。

現場で働く人たちは、不特定多数の様々な利用者に接する中で、7月には新宿駅で11名、8月には渋谷駅で12名のクラスターが発生するなど、JR本体のみならず関連会社を含めて、あらゆる職場で感染者が増えている。

駅の改札では「接客を一人終えるたびに手を消毒するため、手が荒れてしまった」「ワクチン接種の予約も取れず感染が怖いから日勤の免除にして欲しい」という声が出ています。出・改札窓口の鍵を閉めて、カーテンを閉めて事務室にじくっとこもってほしい気分だ。

もはや、現場で働く社員には感染予防の強化対策はなく、会社のさらなる対策を待つし

か為すすべがない状態になっている。

国労千葉地本では、4月に「新型コロナウイルス感染対策における申し入れ」を千葉支社に申し入れたが、未だに未実施の状態となっている。

会社は感染者が出た職場を公表し、周囲の感染予防を強化するとともに、クラスターが発生した場合の対策などキチンと社員に周知し、早急に全社員がワクチン接種できる手配を取り、希望者にはPCR検査を会社負担で実施すべきである。

私たちJR関連会社で働く全社員が安全に安心して働ける環境を整備することが、黒字化より先に求められている切実な問題である。

お盆は雨三昧、コロナ感染症、熱中症と現場で働くには大変厳しい今年の夏だ▼勤務中二度ほど「これはヤバイ」という時があった。普通に歩いているだけなのに息苦しい。目がショパショパして先が見えにくい。汗が滝のように流れてくる。休もうにも日陰などない。やっとなどり着いてそのままうずくまってしまった。幸い大事にはならずに済んだ▼年々減らされる要員にベテランのみならず若い子たちも昼休みに机に顔を埋めて居眠り。夕方重い体を引きずり担当業務をこなしていく▼会社は「働き方改革」と称して職域を超えて多能工化を進めている▼長年にわたり培った経験や知識も必要ないと毎日数合わせに奔走している▼そんな会社と闘うことはもちろん、正規・非正規など同一職場で差別する今の在り方・仕組みを変えていかなくては、働き続けられる職場など夢物語だ▼国民に背を向ける現政権を倒すため来る衆議院選挙には必ず投票に行こう！(一)

疑問と不安だらけの回答

JR利用者アンケート

今回の「JR利用者アンケート」の内容は「Q5. JRはワンマン運転の拡大を計画しています。車掌がいなくなり、安全やサービス面の低下が懸念されます。不安や疑問なところがあればお聞かせください。」という設問。

次のような回答が寄せられた。

◆久留里線は曜日などで編成数を柔軟に変更しているが、今回は2両と限定されていることが心配。高校が急きよワンマン運転の間帯に下校するようになったら乗り切れるのか？◆人問らしい幸せとは何か？とJRは考えてほしい◆そんなに人件費を削ってその利益はどこへ？◆小動物

と衝突など運転士は今でも大変。これ以上過重労働になると利用者への危険が増すのでは？◆益々利用者が減り廃線につながるのでは？◆今も無人駅が増えていく。急病人対応で駅員も車掌もいないと大変◆沢山の人を乗せる公共交通でありワンマン化は何かあった時の対応に不安を感じる

◆災害時などに対応できないと困る◆今以上のサービス低下はやめて◆病人や車イスなど介助が必要な人は利用できなくなるのでは？◆過疎地域の交通経営は難しいだろうが、交通文化を守るのも運営主体の矜持なので歴史を守って。JRも全体的に見たら富の偏差値

があるのではないかと◆地方ローカル線はワンマンにしないと経営が成り立たないのでは？◆障がい者の利用は困難を増すので対策が必要◆車掌が少なくても済むように駅の安全対策を進めて◆乗客の降り時の安全面が心配。

◆どの回答も、ワンマン運転への不安と心配が多く述べられている。実際に、ワンマン運転の拡大が実施された3月には車内から降りようとした利用者がドアに挟まれ転倒するという事象が起きている。JR千葉支社が発行する「ハートフル通信」第3号の「5月のお客さまの声の傾向」で、「輸送計画(車両増設要望・接続時間)」は4月と比べてワンマン列車ご利用の通勤・通学のお客さまからのご意見が減少したと記されている。

蘇我駅の改札窓口は朝・夕の通勤時間帯以外は窓が閉まり、カーテンも閉められている。乗務員が「蘇我駅の改札は一部時間帯がインターフォン対応になっている。お客様には相当不便、不親切に思える」とサービスマンを提出、運輸区は営業部へ詳細を確認すると返信したが、「1カ月経とうとする今も乗務員へ説明されない。」

何故！なぜ！

6月に一人泊まり勤務の駅で緊急搬送される事象が発生した。これまで高齢の人の一人泊まり勤務は危険と訴えてきた。会社は昨年、社員を守るために「見守りカメラ」を設置したと胸を張ってきた。しかし、これは社員が1時間近く全く動かない状態が続くとアラームが鳴り、初めて支店当直が状況を確認するシステムで手遅れになるのではないかと

国労蘇我運輸区分会より

国労木更津分会より

闘うネコ伝説 ～第5章～

JRを支配する八犬士たちは最近、人々へのサービスを減らしてばかりいるらしい。「持続可能な鉄道経営のために」と言っているが、本当は最近大流行の「疫病」の影響を受けて利用者が電車を乗らなくなり、売り上げが大きく減ってしまったからだ。ムサマル(武蔵野線代表)は、駅に調査に出かけてみてびっくりした。今まで当たり前であったはずの、駅の案内用の大型の時刻表がなくなっているのだ。



「大変だニャ！報告だニャ！」慌ててムサマルは、仲間のケヨリン(京葉線代表)・ウチニャン(内房線代表)・ソトニャン(外房線代表)・クルリン(久留里線代表)・ナカニャン(成田線・鹿島線代表)・ソウニャン(総武本線代表)にLINEを送った。すると「実は千葉の全ての線区で、困ったことになってるニャ・・・」

どうやらウチニャン・ソウニャン・ケヨリンがいつも使う駅では切符を買う券売機や、改札の通路まで減らされているらしい。駅では今まで以上に長一列ができていて、「疫病」がかえって拡がるのでは？と皆も心配そうである。けれどもJRは「疫病」の対策に全力で取り組んでいます。とアピールしているのだ。人々は駅の急激な変化に戸惑いを感じているが、八犬士は利用者のことは気にしていないようだ。急激な変化と言えば「3月に実施されたダイヤ改正で、運転士さん一人だけの電車がが増えてるニャ」とナカニャンが言っていたはずだ。ワンマン運転の問題は、いったいどうなっているのだろうか・・・？

